

森と人と。

Volume **01** / 2023
November

兵庫県では、身近な森林や自然環境を守ろうと200以上の森林ボランティア団体が活動しています。北は但馬から南は淡路まで、伐採や遊歩道の整備、植樹や自然観察会など活動内容もさまざま。日々どんな場所でどんな活動をしているのかをご紹介します。

兵庫県森林ボランティア団体活動紹介

<Report>「森は与えられるものじゃなくて育てていくものだから」 <Interview>一人で始めたゴミ拾いから、地域の憩いの森づくりへ。 <Calendar>可憐な花と多様な生き物であふれる、あびき湿原の1年。 <森林ボランティアとは>「人がはいる。それが“豊かな森”」 <Photo Album>こんな場所でこんな笑顔 ...etc.



写真提供団体一覧
1:あびき湿原保存会(加西市) / 2:奥播磨夢倶楽部(宍粟市) / 3:お太子木こりん(太子町) / 4・5:神付・産土の森の会(神戸市) / 6・7:溪のサクラを守る会(川西市) / 8:田和棚田交流人(佐用町) / 9:丹波おおやま里山オーナー会(丹波篠山市) / 10:ひょうご森の倶楽部(全県) / 11・12:平松区森林愛好会(丹波市) / 13:フォレスター松寿(神戸市) / 14-18:ほくら〜ととや森の世話人倶楽部(神戸市) / 19・20:的形ふるさと里山会(姫路市) / 21:もりんちゅうの会(三田市) / 22:よこおみち森もりの会(神戸市)



Report -レポート-

「森は与えられるものじゃなくて育てていくものだから」

—— フォレスター松寿 代表世話役 永井 唯晴さん



土曜日の朝、JR甲南山手駅に集合したらまずは住宅街の急な坂を20分かけて上がり六甲山への登山口に到着。そこでみんなで準備体操をし、刈り払い機などの荷物を担いでいよいよ山へ。登山道を歩くこと30分、少し開けた場所にたどり着きます。遠くに海も見えるこの場所がフォレスター松寿の活動地です。

「まず山に登るでしょ、それから草刈りとかの作業をするから、大変といえば大変だけど、清々しい気持ちになるんですね。お昼になればみんなでご飯食べて、下山したら私はいつもそのまま銭湯に。もちろんビールも、ね。それがまた幸せで。全身使うから体は疲れるけど、終わったら次の活動日が楽しみにしてるんですよ」と会員のひとり。同僚に話を聞いて「なんだか楽しそう」と参加したのがきっかけで、活動は3年目になるそう。この日は電動の刈り払い機を軽々と持ち、笹藪を刈っていた。「終わった時、ここがきれいになっているのが気持ちいいんですよ」。

参加者は10代から80代まで幅広い。倒木を片付けるグループ、伐採をするグループなど、ベテラン陣や初心者が混じり合って作業を進める。この日が初参加という女性は「山が好きでよく歩いてたけど、こうやって誰かがきれいにしてくれてたんだって。やってみて初めて気がつきました」と登山道の階段の草を一段一段鎌で刈りながら話してくれた。

代表世話役の永井さんはこの地域で生まれ育ち、放課後、友人と山で過ごす日々が日常だったそう。永井さんは言う。「森と共生する」なんていふようなことじゃなくて、木のそばにいる。森の中にいる。それでいいんです。青空があって木があって、ここにいるだけで気持ちがいいでしょ。その場所を持続できるように守っていくということが森林ボランティアの活動だと思っています。家だって持続させるのにメンテナンスが必要なのに、森も同じ。森は与えられるものじゃなくて育てていくもの。それだけのことなんだと思います。理屈じゃない、喜び、かな」。

フォレスター松寿 神戸市
2009年設立。甲南女子大学北部の古くからの登山道魚屋道(ととやみち)尾根コースの途中が活動場所。雑草木の刈払い・伐採や植樹・登山道の整備を行う。

Topics -トピックス-

各地の活動団体から届いた、日々のトピックス。

お太子木こりん 太子町
応募殺到、たけのこ掘り大会。
毎年恒例のたけのこ掘り大会「SN S」で告知して参加を募れば応募殺到！真年にも関わらず子どもたちは森を駆け回っていました。みんなで楽しく竹林整備です。

平松区森林愛好会 丹波市
里山の清流と孟宗竹で贅沢なソーめん流し。
恒例の夏まつりイベントで地域の子どもたちを対象に里山の清流と孟宗竹(12m程の青竹)を利用してソーめん流しをしています。とても冷たておしいと人気定番の一つになっています。里山の森林資源を活用した贅沢なひと時です。

ひょうご森の倶楽部 全県
おしゃべりしながら秋のシバグリ拾い。
秋が近づくと、活動地の毎年決まったところで、シバグリを拾います。去年も採れたなあと、去年より時期が早いなあと、休憩中におしゃべりしながら、最後解散の前には採ったシバグリをみんなで分け合います。これも森の恵みの一つです。

フォレスター松寿 神戸市
一人三石運動。
登山道の入口で「一人三石運動」を実施中。登山道の入り口に小石を置いておき、ハイカーの方に登山道の途中まで持っていくようにお願いしています。小石は、登山道整備時に、登山道の階段の土砂流出防止とハイカー滑り止めとして活躍しています。

井手里山を守る会 淡路市
年末最後は門松づくりを。
年末になると活動フィールドの入り口に大きな門松を作ったり飾ります。同時に作った小ぶりの門松は集会所の玄関に。十年以上続けている作業で年末の仕事納めになっています。

神付・産土の森の会 神戸市
薪を使ってくれるピザ屋さんみんなの自慢。
森林整備活動で伐採した木は薪や炭にして、販売して活動資金にしています。活動地の近くにあるピザ屋さんにも、薪を販売しています。そのピザ屋さんには繁盛しているようで、みんなのちよつとした自慢話です。

奥播磨夢倶楽部 宍粟市
高原のスキで茅葺き屋根の葺き替え体験。
毎年秋に、高原のスキを刈り取り、茅葺き屋根の材料にしています。冬には茅葺き屋根の葺き替え体験ワークショップを実施しています。作業を終えたその顔に充実した様子が伝わってきます。

兵庫県の森林ボランティアについて
兵庫県は1994年に第45回全国植樹祭が兵庫県村岡町(現香美町)で開催されたことを契機に、同年より森林ボランティアを育成してきました。2023年3月現在、県内では218の森林ボランティア団体で、10,507人の森林ボランティアが活動されています。

▶ 森林ボランティアにご興味を持たれた方は
すぐに体験・活動してみたいという方は、兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会のHPに、県内で活動する森林ボランティア団体の連絡先などを掲載していますので、直接ご連絡ください。また、県では基礎から森の働きや整備方法などを学べる、森林ボランティア講座を開催しています(例年9~12月に実施、受講受付は例年7月)。受講方法など詳細はHPをご覧ください。



問い合わせ先: 兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会(事務局: 兵庫県農林水産部治山課) TEL: 078-362-3613 / FAX: 078-362-3952
● 兵庫県では、公益的機能を高度に発揮する「豊かな森づくり」を目指して、県民総参加で守り、育て、活かし、広げる取り組みを展開している中で、「森林ボランティア」や「企業の森づくり」を応援しています。



一人で始めたゴミ拾いから、地域の憩いの森づくりへ。

1968年に開発が始まったニュータウン、川西市清和台、その一角に長年放置され一時は荒れ果てた「虫生の森」を再生させた「虫生川周辺の自然を守る会」の代表 菅原八重子さんに立ち上げからこれまでの話を伺った。

住宅街に残された小さな森で出会った、白い花。

大分県の山のそばで育った菅原八重子さんは、46年前清和台に住み始めた。家のすぐ近くに虫生の森があり、植物が好きな菅原さんは猪名川までの里道をよく訪れていた。「それが久しぶりに来てみたらゴミだらけで笹の藪。荒れ果てた森は怖くて住民が近づけない場所になっていたんです。空き缶からタイヤやテレビまで、山になったゴミをひとりで片付けはじめた菅原さん。徐々に手伝ってくれる仲間も増えて、笹を刈り、倒木等を片付け里道を整え、4年かけてようやくこれまでの森の姿に戻すことができた。

「それからね、この森にどんな植物や木が生えているんだらうってずいぶん歩きまわって調べました。知らない植物は図書館の本で名前を覚えて」。ある時、菅原さんが森に入ると一面に白い花が咲いている風景にでくわした。「ちょっとモヤがかかった中に白い花がすぐ幻想的で。今まで何度も通っていた場所だったけど、初めて見た花だったんです」。その白い花は希少な「シロバナウンゼンツツジ」と判明、早速植生調査を行った。手入れされずに常緑樹が生い茂って日が当たらない中で、なんとか生き残っていたシロバナウンゼンツツジの大群。「なんとか守りたい」との思いで、2015年、菅原さんたちは森の整備ができるよう作業道をつくることにした。ツツジの大群が急斜面にあったため、山の斜面を削り、倒木を並べ、土を踏み固めて鉄管パイプを



コナラ群落に咲くシロバナウンゼンツツジ。4月下旬に満開をむかえる。

打って手すりをつけていった。少しずつ道を延長して、8年経った今は森を一周できるように。そして、木漏れ日が差し込むよう手入れを続けた森には、シロバナウンゼンツツジのこぼれた種からたくさん芽が生えたり、キンランやコアジサイなどこれまで自生していた多種多様な植物が戻ってきている。



活動の拠点場所。ここでみなさんとコーヒーを飲んだりするそう。「高齢で保全活動は引退しても、ここにお茶しにきてくれる方も。そういうのもうれしいですね」。

「ああ、全部つながってるんだなって」

今はシロバナウンゼンツツジの公開イベントを行ったり、地域の小学校の環境学習も受け入れながら、保全活動も続けている。「ここに生えているもの全部知ってるんじゃないかなっていうくらいこの森を歩いて見てまわってるけど、今でもまだ新しい植物や生き物に出会うんです。しかもこの虫はこの植物を食べるんだとか、この蝶はこの蜜を吸うんだとかだんだんわかってきて。この森にいるんな植物があるから生き物も棲めるんだな、ああ、全部つながってるんだなって思ったらなんだかうれしくて」。

「今は植物だけでなく、虫も鳥も全部好き」という菅原さん。森を歩きながら話す目は輝いている。「最近、この新しい作業道を作ったらね、アワブキがたくさん生えているのがわかったの。だから（幼虫が）アワブキの葉っぱを食べる蝶、スミナガシにいつか出会えるんじゃないかって、今からワクワクしてるんです」。

Nature -自然-

その土地でしかない出会いも。

各地の森を彩る、花や生き物。いつでもどこでもあるわけじゃないからこそ、その土地に足を運ぶ喜びも。

ササユリ

溪のサクラを守る会 川西市

葉が笹に似ているから「笹百合」と呼ばれる、日本にしかない固有種。野生種は数が減りつつあります。

コバノミヅバ

神付・産土の森の会 神戸市

葉が出る前に花が咲くので、満開の春には里山が鮮やかな色でいっぱい。

森のエビフライ

ひょうご森の倶楽部 全県

秋の足下をよく見てみると小さなエビフライ。リスが松ぼっくりの種を食べた後残った芯が正体です。

アサギマダラ

よこおみち森の会 神戸市

春・夏は日本の高原に、秋・冬は沖縄や台湾に移動する珍しい蝶です。アサギマダラが好んで訪れるフジバカマを育てる団体は多数。

Craft -クラフト-

保全しながら次なる楽しみも。

森の保全には必要な伐採。伐採した木を生かすのも森の楽しみ。

ハシヅナ・シタケ

溪のサクラを守る会 川西市

竹の内側の節を人の口に見立てて歌っている顔を切り出します。節の位置によってさまざまな表情の合唱団に。

原木シイタケ

よこおみち森の会 神戸市

クヌギ、コナラなどにシイタケ菌を植え、自然の森と同じような環境を整えて、人工栽培とはひと味違うシイタケを。

炭づくり

神付・産土の森の会 神戸市

本格的な炭窯で、間伐したコナラやカシでBBQや暖房などに適した炭をつくっています。

可憐な花と多様な生き物であふれる、あびき湿原の1年。

加西市南部の網引町に位置するあびき湿原。長年放置され消失の危機にあった湿原を守ろうと、この地域に住む山下公明さんはじめ有志の方達が保全活動を開始したのは約10年前。今や県下最大規模、希少植物や生物の宝庫で県の天然記念物となっている、あびき湿原の一年の様子を山下さんに案内してもらった。



活動当初、この湿原にはいませんでしたがだんだん姿が見られるように。ギフチョウの数を増やすため、ギフチョウが好きなヒメカンアオイを株分けする活動を地元の小学生たちと行っています。

3月



5月
6月



市内11小学校に植生や生物の観察会を実施

Yamashita's Comment
5月から秋にかけてが花の見頃。この時期の週末は会員がガイドをしています。会員の中には虫や花に詳しい人がたくさん。さらに勉強会でお互いの知識を共有しています。ガイドをしながらみなさんと話ができるのも楽しみのひとつ。



7月
8月



10月

山から木を伐り出し、湿原の小さな虫や花が近くに見えるように作った散策道。毎年傷んだところを補修し、春からの公開に備えます。



地域の小学生とユウスゲの種を植え付けます

11月~3月



地元の高校生も参加して湿原の草を全て刈り、刈った草を運び出します

「今までになかった花が生えてきた時がやっぱり一番うれしい」

(あびき湿原保存会 代表 山下公明さん)

地区長になった約10年前、市役所から湿原の保全をしてくれないかと依頼がありました。ひとまず現場を見ようと訪れた時、ハツチョウトンボに出会いました。小さくて真っ赤な姿に魅せられて、これは守らないといけない。有志10人で活動を開始。ただ最初は木を伐るところからだったから大変で。みんな傷だらけでした。でも日が当たるようになった湿原には、何もなかったところから花が見られるように。ずっと土の中で我慢していた種がようやく芽を出したんだと思うと、これ以上のうれしさはありません。活動開始当初は5種類くらいだった絶滅危惧種も今や植物・生き物あわせて40種類ほどに。これをいかに維持していくかがこれからは大事だと思っています。



「人がはいる。それが“豊かな森”」

(ブナを植える会 代表理事 / 兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会 会長 桑田 結さん)

「ブナを植える会」ができたのは今から40年以上前、森林ボランティアとしては兵庫県で初めての団体でした。戦後、草原だった鉢伏山にブナを植えて自然の姿に戻す活動です。その頃はとにかく戦後の需要で木が伐られ、はげ山も多かった。でも時代が変わり、人が山にだんだん入らなくなって、今は逆に伐ることが必要になっています。時代によって森との接し方が変わってきたというところはあると思います。森林ボランティア団体の活動も多様になりました。広場づくりに精を出す団体もあれば、木工細工を楽しむ団体、子どもたちに環境学習をする団体もあります。でもそれは「森をどう使うか」が違うだけ。豊かな森があってこそ楽しみます。だからみんな「豊かな森をつくりたい」という想いは共通しているのではないですか。人が入って、適度に木を伐り、地面に日が当たり、草が生え、虫が棲み、きれいな水が流れる。放ったらかしではそうはいきません。「人がはいる豊かな森」をつくること。それが私たちみんなの活動の根幹だと思っています。



各地で行われている作業の数々。

伐採や植樹など作業は違えど、各地の団体が行うのは森の保全。作業前と作業後の様子とともにポイントを解説していただきました。



01 竹林を整備して森を守る

よこおみち森の会 神戸市

02 マツタケ山再生を夢見て

ひょうご森の倶楽部 全県



マツタケ山再生のため、アカマツの周りの雑木伐採を行い、腐葉土や根の撤去などの作業も。マツタケ発生を目指して、整備を続けます。

03 少花粉スギを植樹

兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会 全県



花粉が通常の1%以下という少花粉スギを神戸市の再度公園に100本植樹。下刈りなどの育樹作業により、苗木は無事に成長しています。